

全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査

結果及び分析、今後の取組について

小城市立岩松小学校

- ◎実施日 平成30年4月17日(火)
◎対象 5年生40名 6年生43名
◎実施教科 5年生「国語」「算数」「意識調査(生活や学習に関する調査)」
6年生「国語」「算数」「理科」「質問紙(生活や学習に関する調査)」
※6年生の「国語」と「算数」については、
知識技能に関する「国語A」「算数A」、
活用に関する「国語B」「算数B」に分かれている。

◆国語◆

第5学年【国語】	
◎成果	●課題
<p>◎「ローマ字で表記されたものを読む」や「国語辞典の使い方を理解する」は、概ねできている。</p> <p>◎「漢字を正しく書く・読む」は、県の正答率より高い。</p> <p>◎最初の問題の正答率が、最も高かった。選択問題であったことと、集中力が高かったためだと考えられる。</p> <p>◎記述式の問題の中で、問いの中に記述する条件(使う言葉など)が書いてあるものはよくできていた。</p>	<p>●無解答率が高いため、全体の到達基準を下げています。後半の問題までたどり着けなかったためと思われる。 →最終問題になると、無解答率が10%前後までになっている。</p> <p>●記述式の問題(資料を読み取り、要点を絞って書く問題)の正答率が低い。 →「もう一度本文に戻って大事な言葉をさがすこと」や「内容を正しく読み取ること」「問われていることを理解すること」ができていない。 →「だれに」「だれが」「なにを」などを正確に捉える力が十分でない。</p>

第6学年【国語】	
◎成果《A問題(知識技能)・B問題(活用)》	●課題《A問題(知識技能)・B問題(活用)》
<p>A◎「目的地への行き方の説明として適切な言い方を選ぶ」は90%以上の正答率で、県よりも高い。</p>	<p>A●「目的に応じて必要な情報を捉える」や「文章構成の工夫や効果を捉える」の正答率が低い。 →『書く力』『読む力』が不十分。</p> <p>A●「主語・述語」「敬語」「漢字」などの正答率が低い。</p>

B◎「話し手の質問の意図を捉える」は80%以上の正答率で、県よりも高い。

＜全体を通して＞

◎日頃から、落ち着いて話を聞くことができているので、話し手の意図をつかみながら聞く力が育ってきている。

→『語句に関する知識』の習得が不十分。

B●「話し手と自分の意見を比べるなどして考えをまとめる」「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く」「推薦するためには、他のものと比較して書くことでよさが伝わることを捉える」などの正答率が低い。

→『書く力』が不十分。

B●「目的に応じて複数の本や文章などを選んで読む」「文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」などの正答率が低い。

→『読む力』が不十分。

＜全体を通して＞

●体験したことを話したり、書いたりすることが不足しているため、表現できない。
●文章の構成や構造を考えるための知識と語句や文法等に関する知識が不足。国語科の知識と見方・考え方を活用して考えることが必要。



課題解決に向けた今後の重点取組【国語】

1. スピーチタイムの充実

- ・主語のある正しい文で話をさせる。
- ・聞くだけにとどまらず、感想や意見まで言わせる。
- ・つなげる話し方を意識させる。(例「私の考えは〇〇さんと似ていて～」「〇〇さんは～と言いましたが、私は～」…など)

2. 語彙指導の推進

- ・指導事項をリストアップする。
- ・インプットだけでなくアウトプットまでさせる。(得た知識を使って考えさせる作業を意図的に仕組んでいく)
- ・言葉あそびや文づくりのワークに取り組みさせる。

3. 新聞や辞書の活用、並びに読書の励行

- ・新聞記事やコラム欄をみんなで読んで感想を伝え合ったり、視写させたりする。
- ・読書への取組に示唆を与える。(例「好きな本を」「辞書を引ながら」「繰り返し(もう一度)」…など)
- ・短時間でもいいので、できるだけ毎日読書をさせる。

◆算数◆

第5学年【算数】

◎成果	●課題
<p>◎小数のたし算の筆算ができる。</p> <p>◎長方形の面積の公式から、縦や横の辺の長さを求めることができる。</p> <p>◎四捨五入の処理の仕方がわかる。</p> <p>◎面積の量感がある。</p> <p>◎タイルで階段をつくるときの変わり方のきまりがわかる。</p> <p>◎直方体の展開図を組み立てたときに重なる辺と辺がわかる。</p> <p>◎分度器のめもりの読み方が正しくできる。</p> <p>◎例題（正三角形）にならって正方形の場合を考えることができる。</p>	<p>●小数のかけ算や、二桁の整数でわるわり算、四則計算のきまりなど、計算力での二極化が見られる。</p> <p>●1億2千万を12千万と書いたり、除法における検算のやり方を間違ったり、25に4をかけて100を作ることができなかつたりするなど、計算の基本的な知識理解が不十分である。</p> <p>●例示された説明や解き方を応用して、それにならって答えを求めたり、説明を記述したりする問題に不慣れさが見られる。</p> <p>●平面において垂直な二直線を見つけたり、空間において重なる頂点を見つけたりすることに苦手さを示す部分がある。</p> <p>●空間におけるものの位置の表し方を理解していない部分がある。</p> <p>●テスト時間内に最後まで行けずに無解答になったと思われる部分がある。</p>

第6学年【算数】

◎成果《 A問題(知識技能)・B問題(活用) 》	●課題《 A問題(知識技能)・B問題(活用) 》
<p>A◎線分図で表されていると、1あたりの量を求める立式の手がかりにすることができる。</p> <p>A◎十進法の数の概念に関しては、おおむね理解できている。</p> <p>A◎直線は180度であることを理解している。</p> <p>A◎順序良く、考えることがはっきりしている問題は、抵抗が少なく解くことができている。</p> <p>A◎情報を順序良く整理したら、答えが比較的簡単に出来る問題は理解できる。</p>	<p>A●小数で表されるとき1あたりの量が理解できていない。</p> <p>A●小数の除法の意味が理解できていない。</p> <p>A●1あたりの量を求めるわり算の式と答えの意味が理解できていない。</p> <p>A●分度器を用いて、180°より大きな角の大きさを求めることができない。</p> <p>A●円周率の公式の理解または、変換ができていない。</p> <p>A●直径と円周の長さの関係（直径が2倍になれば、円周も2倍になる）を理解できていない。</p> <p>A●百分率を求めることができない。</p>

B◎示された考えを解釈し、条件を変更しながら表現することは、苦手ではない。

<全体を通して>

- ◎線分図や、考え方の手本が示されていると理解の手がかりにすることができる。
- ◎全体的に継次処理が優位。順序良く考えることが得意。

A●文章と折れ線グラフを関連させて読み取ることができない。

B●メモとグラフの関係を読み取り、何を表しているのか解釈することができない。

B●棒グラフと帯グラフの関連を読み取ることができない。

<全体を通して>

- 小数の理解が低い。
- 小数の除法の意味の理解が低い。
- 分度器、角度の理解が低い。
- 分かっていることをグラフに書き込んで整理し、試行錯誤しながら、解釈する作業ができていない。
- 自分の考えを文章で表現することが苦手。
- 思考力が必要な問題に、自分の力で挑もうとする主体性が低い。



課題解決に向けた今後の重点取組【算数】

1. レディネス調整の強化

- ・新しい単元に入る1週間以上前にレディネステストを実施する。前提テストにおいて、習得できていない問題については、宿題や休み時間等を使って繰り返し取り組ませ、既習事項の定着を図る。

2. 「無解答なし」の意識化

- ・時間内に終わらせることの重要性を説き、「無解答なし」をしっかりと意識させていくことで、思考や作業のスピードアップを図る。「作業は速く丁寧に」「時計を見る癖をつける」「全解答欄をまず埋める」などの指導を粘り強く行っていく。

3. 「解き直し」の習慣づけ

- ・「見直し」ではなく「解き直し」という表現で、児童の意識内に落とし込んでいく。日頃の授業、テスト、宿題等から、解き直しを習慣づけていくことで、ミスポイントを減少させる。

◆理科◆

第6学年【理科】

◎成果

◎技能、知識・理解分野の問題では、十分達成に近づく正答率を得ることができている。

●課題

●記述式の問題の正答率が極端に低く、短答式も正答率が高いが、無解答率も高い。

◎生き物の観察を行う条件を問う問題の正答率が高い。(十分達成)

◎実験結果をまとめたものの中から、まとめた視点を見つけ出す問題の正答率が高く、県平均を上回っている。

◎「関節」という言葉を理解している児童が大変多い。(十分達成)

◎複数の情報を関連付けて、どのような事象がおこりうるかを予想する問題では、県平均を上回っている。

◎実験の行い方を問う問題の正答率が高く、県平均を上回っている。

◎複数の実験の結果を分析して考察する問題の正答率が高い。(十分達成)

●腕の模型を使って、どんなことができるかを考える問題の正答率が低い。

●実験の予想と結果を結び付ける問題の正答率が低い。

●実験の結果から、起こりえる事象を考える力は高いが、その理由を説明する力が大きく落ちている。

●電池の向きを逆にした時の図を考える問題の正答率が低い。

●太陽の動きと日光の向きを関連付けて考える問題の正答率が低い。



課題解決に向けた今後の重点取組【理科】

1. 書く・話す活動の充実

・自分の考えを話したり書いたりする時間をきちんととり、「なぜそう考えたのか」の理由まで説明させるようにする。

2. 丁寧な問題解決学習

・つかむ、見通す、調べる、学び合う、まとめる、振り返る等の学習過程を着実に進めながら、観察や実験まで丁寧に行っていくようにする。

◆意識調査◆

第5学年【意識調査】

◎成果	●課題
◎学校に行くのは楽しいと思っている児童、友達に会うのが楽しいと思っている児童、将来の夢や目標を持っている児童は90%を超えている。	●友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だという児童は40%未満で、県平均を下回っている。
◎学校では落ち着いて勉強することができている児童は、80%以上いる。	●平日に全く勉強をしない児童はいないが、学校で設定している目標学習時間に満たない1時間未満の児童が30%ほどいる。
◎人の役に立つ人間になりたいと思っている児童は100%である。	

【学習面】

- ◎友達の考えを聞いたり自分の考えを持ったりすることはできている児童は85%~90%程で、県平均を上回っている。
- ◎自分で計画を立てて勉強をしている児童は70%を超え、県平均をやや上回っている。
- ◎学校の宿題は90%の児童はしている。
- ◎テストのやり直しは、80%以上はしている。
- ◎授業では、話し合い活動をよく行っていると思う児童が80%以上おり、課題に対して自分から取り組んだり情報を集めたりしている。
- ◎理科は80%の児童が内容もよく分かり好きだと答えている。
- ◎読書が好きな児童、平日も読書をする児童は、90%を超え、県平均より高い。
- ◎国語の授業で80%は文章の内容を理解しながら読んでいる。
- ◎社会の授業で、90%の児童は調べたり考えたりすることがわかって学習している。
- ◎算数の授業では、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている児童は90%。

【生活面】

- ◎朝食は91%の児童が毎日食べていて、県平均を10%ほど上回っている。
- ◎平日にゲーム、通話やメール、インターネットをする児童は県平均よりも少なく、まったくしない児童も多い。
- ◎携帯電話やスマートフォンを持っていない児童が半数おり、家の人との約束をだいたい守っている児童は100%である。
- ◎ニュースを見たり読んだりする児童は、67%で、県平均より多い。
- ◎地域の行事に参加している児童は、80%を超え、県平均より多い。

【学習面】

- 家庭学習では予習より復習をしている児童がやや多いが、どちらも県平均を下回っている。苦手な教科の勉強をしている児童は半数を超えているが、県平均より少ない。
- 自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと感じている児童が60%を超えている。
- 国語、社会、算数の授業内容はよくわかるし、将来役に立つと思っている児童が80~90%以上いるが、好きだと答えている児童は60%程度にとどまっている。
- 理科の授業で学習したことが普段の生活に生かせないかを考えたり、見つけたりしている児童が60%で、県平均より下回っている。
- 国語の授業で、理由や考えを書いたり、組み立てを工夫しながら話したりしている児童は60%で県平均よりやや下回っている。
- 社会の授業で、話し合ったり、自分でまとめて書いたりすることは70%で県平均より下回っている。
- 算数の授業で学んだことを、普段の生活の中で活用したり、公式やきまりのわけを理解したりするようにしている児童は70%で県平均を下回っている。

【生活面】

- 10時前に寝ている児童は半数、11時以降に寝ている児童は5%程度、12時以降の児童も1名いる。
- 家の人とテレビやゲームの約束を決めている家庭は58%である。

第6学年【質問紙】

◎成果	●課題
<p>【生活面】</p> <p>◎「自分にはよいところがある」は、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」が約86%。（「当てはまらない」は0%） →県と比べて、自己肯定感が高い。</p> <p>◎「学校のきまりを守っている」は、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」が100%。 →県と比べて、規範意識が高い。</p> <p>◎家庭生活にかかわる質問項目についても、ほとんどが県並みかそれ以上。 →県と比べて、家庭生活は概ね良好。</p> <p>【学習面】</p> <p>◎「学校の授業の予習復習をしている」が約71%。</p> <p>◎「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強している」では、1時間以上が40%、2時間以上が43%。</p> <p>◎「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書している」では、30分以上が50%。 →県と比べて、 学習に取り組む意識は非常に高い。</p> <p>◎算数や理科の質問項目についても、ほとんどが県並みかそれ以上。 →県と比べて、 算数や理科に対して前向きである。 （今回、国語にしぼった質問はなかった。）</p>	<p>【生活面】</p> <p>●「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」は、「当てはまらない・どちらかといえば当てはまらない」が約57%。</p> <p>●「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」は、「当てはまらない」が約19%。 →県と比べて、 地域や社会への関心がうすい。</p> <p>【学習面】</p> <p>●「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」は、「当てはまらない・どちらかといえば当てはまらない」が約31%。</p> <p>●「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか」は、「当てはまらない・どちらかといえば当てはまらない」が約60%。 →県と比べて、 学び合いがうまくできていない。 （今回、国算については同様の質問はなかった。）</p> <p>●国語AB、算数AB、理科のすべてにおいて、テスト時間が「やや足りなかった・全く足りなかった」が多い。 →県と比べて、 「時間内に終える」が劣っている。</p>

5・6年共通質問【意識調査・質問紙】

◎成果	●課題
<p>【生活面】</p> <p>◎地域行事への参加率が高く、特に5年は「当てはまる」が73%である。「どちらかといえば当てはまる」を含めた肯定的回答は5、6年ともに80%を超えており、本校の特色である地域との連携や地域の教育力の高さが表れている。</p> <p>【学習面】</p> <p>◎平日1時間以上の家庭学習ができている児童が5、6年ともに県平均を大きく上回っており、特に6年は83%と飛び抜けて高い。また、「自分で計画を立てて勉強している」という肯定的回答をした児童も同様の結果であり、6年では88%であった。また、特筆すべきは5、6年ともに「全く計画を立てていない」との回答が0%であること。「家学がんばり週間」や自主学習ノートなど全校をあげた取組の成果として家庭学習の習慣づけが図られたと評価している。</p> <p>◎30分以上の読書習慣が身につけている児童が5、6年ともに50%を超えており、県平均を大きく上回っている。「家読」など家庭を巻き込んだ長年に渡る読書指導の成果であると考えられる。</p> <p>◎算数の学習については、「好きだ」と肯定的に回答した児童は5、6年ともに県平均を下回ったものの、「内容はよく分かる」は80%、「将来役に立つ」「分かりやすいノートの書き方」は90%を超えている。さらに6年は、「普段の生活の中での活用」や「公式やきまりのわけを理解する」については県平均を大きく上回っており、学び方への意識は高いことがうかがえる。</p>	<p>【生活面】</p> <p>●6年生の朝食の喫食率が県平均を下回っている。特に「あまり食べていない」と回答した児童が14%いる。保護者への啓発、食育の充実を継続して取り組んでいく。</p> <p>【学習面】</p> <p>●「宿題をしている」と回答した児童は、5、6年ともに県平均を下回っている。</p> <p>●「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりする」については、6年が県平均を大きく下回っている。昨年度から校内研で取り組んでいるスピーチタイムや学び合う活動を重視した授業改善を継続していく必要がある。</p> <p>●理科の学習については、5年生で「好きだ」「よく分かる」「将来役に立つ」が県平均を下回っている。「好きだ」と肯定的に回答した児童は80%を超えているので、児童の興味・関心を大切に授業づくりをさらに工夫していく。</p>



課題解決に向けた今後の重点取組【意識調査の結果を受けて】

1. 正しい生活リズムの定着

- ・「早く寝る」「朝食をきちんととる」「テレビやゲームやスマホの約束を守る」の3点を重点項目とし、保護者や児童に啓発していく。
- ・学校便りや学力向上便り、保健便りや給食便り等で、正しい生活リズムの大切さを伝えていく。
- ・育友会と連携しながら、総会や懇談会、授業参観等で適切に働きかけをしていく。

2. 宿題提出100%

- ・提出させるだけでなく、やり直しまで徹底させる。
- ・「自主学习ノート」については、内容と質の向上をめざす。授業内容を自分なりにまとめさせるなど、復習にも力を入れ、基礎基本の定着を図る。

3. 書く・話す力の向上

- ・日直による授業終わりの振り返り（感想やまとめなど）を全学年で実施する。
- ・キーワード作文や字数制限作文、課題日記や課題作文を取り入れる。